

授業研究部

学習者主体の発想で授業を構想する

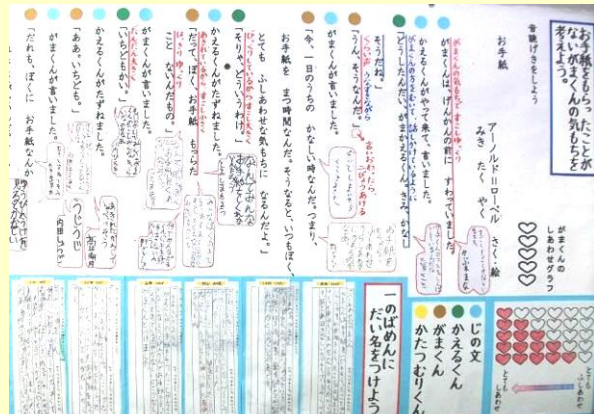


単元を貫く言語活動

なぜこの単元で学習するのか。
この学習をするとどうなるのか。
どんな力がつくのか。

単元の終わりの姿、ゴールを示すことは、学習を進める大きなバネになる。また、学習したことが役立つという経験は、学ぶことの意味を実感するときには欠かせない。

学習のゴールを明確にし、児童の学習意欲を高めるために単元構成を工夫したり、学習の流れを掲示したりする。



- 相手意識を持った学習のゴール「この物語を家族に紹介しよう」「自分の作った野菜ブックを他の学年に発表しよう」
- 意欲を高める工夫「くじらぐもの続きのお話を作ってみよう」

導入の工夫で授業を活性化

音声言語の特性を生かした帯

毎時間の授業の導入で、音声言語の特性（一回性）を生かした言語活動を帯とすることで、学習へのレディネスが高まる。

螺旋的に高まるという言語の特性を踏まえ、発達段階や系統性に留意する。

【留意点】

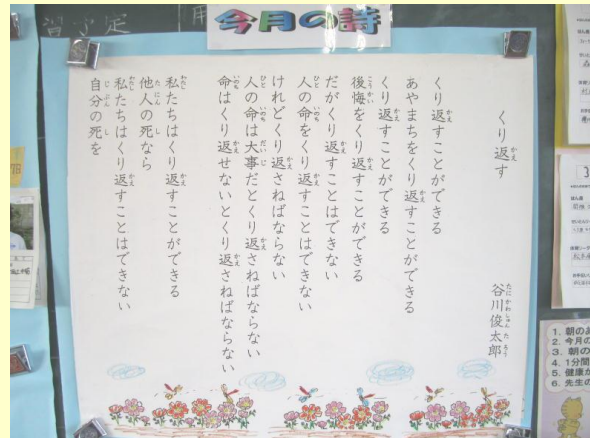
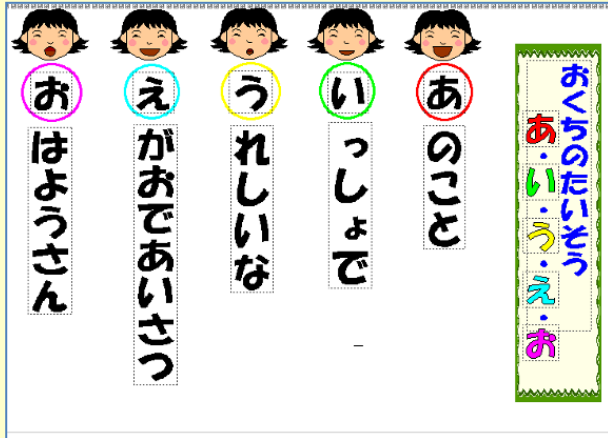
- 具体的な言語活動であること。
- 単なるスキルにならないこと。
- 評価があること。
- 系統性があること。
- 事前の個別指導に留意することなど。

発達段階

低学年	中学年	高学年
◇語のまとまりや言葉の響きに気がつけて	◇様子や気持ちがわかるように	◇自分の思いや感じたことが伝わるように

声を出す活動の実際

学習内容に沿った音読	その他
◇「あいうえお」の練習 ◇カタカナや新出漢字を含む文 ◇単元のまとめとしての音読会など	◇発声練習 ◇口の体操 ◇早口言葉 ◇古典 ◇リズムよく読める詩 ◇授業で学習した詩人の詩 ◇季節を感じられるもの など



音読の基礎、多様な読み方を学ぶ場としても活用できる。

音読の基礎技術
◇姿勢 ◇発音 ◇間の取り方 ◇抑揚 ◇アクセント ◇速さ ◇発声 ◇口形
授業での発表や音読だけでなく、他教科や日常生活でも生かされる。
多様な読み方
◇一斉読み ◇一人読み ◇リレー読み ◇交互読み ◇たけのこ読み (好きのところを読む) ◇たしざん読み (だんだん増えていく) ◇ひきざん読み (だんだん減っていく) ◇役割読み ◇くちびる読み ◇リズム読み (楽器等でリズムを取りながら)



レベルアップ、よさを認め合える評価を実施し、意欲を持続させる。

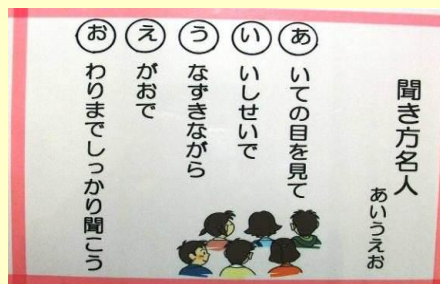
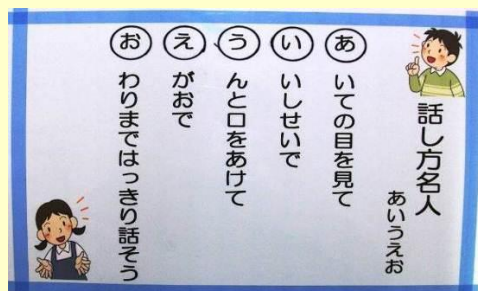


担任による評価の例
◇レベルアップにつながる言葉かけ ◇「こんな読み方をすればいいんだ」という気付きを与える言葉かけ
児童相互による評価の例
◇ペアの友だちと暗唱できたか確認 ◇クラス全体の前で暗唱できたか確認 ◇友だちのよさに気付き、認め、言葉で伝え合う ◇自信につながる言葉かけ ◇友だちのスピーチに題名をつける など

交流の前提としての学び合う教室

学ぶことの楽しさを

友だちとお互いの思いや意見を分かち合ったり、一人一人の感じ方や考え方の違いに触れたりすることにより、互いの気づきや考えを広げることにつながる。学習が深まるとともに、児童の思考力・判断力・表現力が豊かになり、言語活動がより一層充実したものとなる。



学習の質を高める学習資料を掲示し、児童の一人学びを助ける。

目的を明確にした交流

自分の考えや思いを伝え合う

交流により話し合いの方法を学び、お互いの考えを尊重し合い、人間関係を深めて、言葉で伝え合う力を育て、共通点や違いに気づくなど、思考力・判断力・表現力を高めさせる。

○交流の目的を踏まえた言語活動を取り入れる

- ・気づく、確かめる、考えを深めるための交流
- ・人間関係を深める交流
- ・話し合いの仕方を学ぶ交流

○目的に応じて同質の交流や異質の交流を取り入れることで学びが深まる

- 話し合いの方法を学ばせる「話し方カード」
- 様々な交流
 - ・ペア交流→ グループ交流、全体交流
 - ・文章を読み合う交流（アドバイスカード、良かったところに付箋をつける）
- 相手意識のある学習過程「この物語を家族に紹介する」

【児童にとっての交流の意義】

- 誰でも、発表の苦手な児童も話す機会が与えられる。
- 一問一答よりも児童の言語活動が活発になる。
- 一人では気づけなかったことに気づく。
- 友だちに聞いてもらうことで、満足感・自信が持てる。
- 友だちと仲良くなる。安心して学習に臨むことができる。

【交流の留意点】

- 国語以外の授業でも育てていくこと。
- どのような交流をさせたいか、具体的なイメージを持って臨むこと。
- 望ましいと思う交流を紹介し合うこと。
- 交流の紹介を通して良さに気づかせ、次の機会に生かすこと。



児童一人一人を手びくワークシート

国語で学習したことが役立つと実感できる評価

学習を手びく

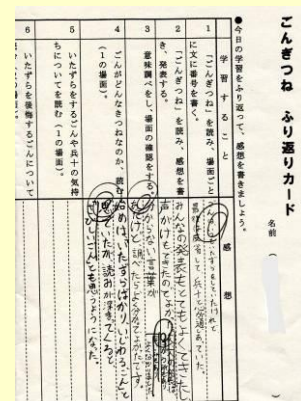
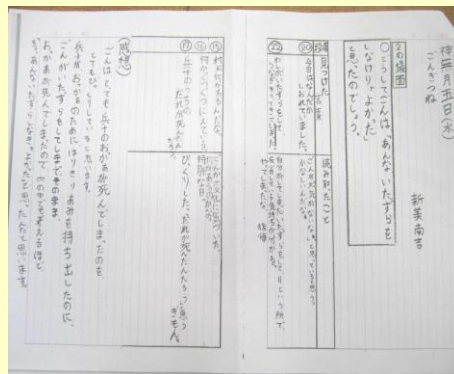
ワークシートの工夫

児童一人一人の実態等を踏まえ、個に応じたワークシートにより、一人一人の学習を確かなものとする。



本時の学習は、目標を達成し児童に確実に力をつけるために行われる。次時の目標設定の指標となる振り返り活動は児童の成長を確認するために欠かすことはできない。

振り返りのカードやノートを使い、学習の記録や児童の成長を振り返る。「みんなと勉強してよかった、わかった。」など国語で学んだことが役立つことを実感させ、自ら学ぶことに喜びを感じさせて意欲を高める。



国語力は学校力

正しい言葉、温かい言葉、豊かな言葉が響く学校に

- チャイム着席
- あいさつは
教師の礼に 合わせて
- 返事はしっかり



授業の10のルール

じゅぎょうの10のルール

- 1 じゅぎょうのまえに、学しゅうのじゅんびをします。
- 2 チャイムのあいさつで ちやくせきします。
- 3 じゅぎょうの はじめのあいさつを さちんとします。
- 4 先生のはなしや ともだちのはっぴょうを しっかりききます。
- 5 名まえをよばれたら、「はい」とへんじをします。
- 6 はっきりした ていねいなことばづかいで はなします。
- 7 せすじをのばした 正しいせいで 学しゅうします。
- 8 ノートは 正しくていねいに かきます。
- 9 じゅぎょうに しゅうちゅうして さんかします。
- 10 じゅぎょうの おわりのあいさつを さちんとします。



授業の10のルール

- 1 授業の前に、学習の準備をします。
- 2 チャイムの合図で着席します。
- 3 授業のはじめのあいさつをさちんとします。
- 4 先生の話や友だちの発表をしっかりと聞きます。
- 5 指名されたら「はい」と返事をします。
- 6 はっきりしたていねいな言葉づかいで話します。
- 7 背筋をのばした正しい姿勢で学習します。
- 8 ノートは正しくていねいに書きます。
- 9 授業に真剣に参加します。
- 10 授業の終わりのあいさつをさちんとします。

